

おおさか

2010年11月25日 No.4

# ヘルパー労組連絡会NEWS

発行：おおさかヘルパー労組連絡会事務局 大阪市北区錦町2-2 国労会館1F

## 11月11日「介護の日」なんば宣伝行動 200名参加



たくさんの方が署名をしてくださいました。



介護現場の実態を各団体から訴えました。

## 介護なんでも110番—鳴り続ける電話—

11月23日(祝)ヘルパー労組連絡会として3回目となる「介護なんでも相談110番」に取り組みました。当日は、NHKと関西テレビが昼のニュースで放映すると、すぐに電話が鳴りだし、18時に終了するまで鳴り止むことがありませでした。電話を取ると「やっとつながった。」「60回もかけた。」「一日だけでは足りなくて。」と言う声とともに、「話を聞いてくれるところがないから困っている。」と相談を受けると、家族の介護に困り果てている様子が伺えました。また、労働者からは、「残業代がでない。」「いつ辞めてもらってもいいと上司から言われる。」など劣悪な労働環境をどうすればいいのか相談が寄せられました。相談件数は、全体で48件でしたが、アクセスはもっとたくさんあったと考えられます。



# 深刻な相談相次ぐ



## 利用者・家族

- ・妻 76 歳（介護 5）の介護をしている。  
1 ヶ月老人保健施設に入ったが、費用（1 ヶ月 11 万 5 千円～12 万）がかさむので退所させたい。
- ・妻 84 歳（認知症・パーキンソン 介護 4）を介護している。  
夫（支援 1、腰痛圧迫骨折）。デイサービス週 2 回を利用しているが、そろそろ入所させたい。
- ・妻が認知症ですべて介護している。自分が癌のおそれがあり、自分が死んだ後、妻のことが心配で首を絞めて自分も死のうかと思った事がある。
- ・夫 70 歳認知症で入院中、特別養護老人ホームに入れるか不安。年金 7 万+1.5 万払っている。特養を希望しているが、お金の負担がしんどい。
- ・夫 82 歳 認知症・介護 4 を介護している。在宅介護は無理、特養を申し込んでいるが 15 万かかる。
- ・妻 82 歳を介護している。年金が二人で 8 万、ヘルパーさんに来てもらい 2 万かかるので生活費は 6 万円。生活に不安を感じ、食費もきりつめている状態。貯金も底をついてきた。

## 介護労働者

- ・勤務時間に終われず、サービス残業になっているが賃金が支払われない。上司からは、帰れないのに「帰れ」と言われる。（タイムカード定時に押さされる）  
痰吸引を昼は看護師がしているが、夜は介護職員がしていて不安。
- ・「介護職員処遇改善交付金」を施設も申請したと聞いているが、改善されていない。残業代が出ない。  
上司からは、「いつでも辞めたらいい」といった感じで、ボランティア精神がないとこの仕事はできないと言われるが、生活がある。  
お年寄りの世話をする介護の仕事が好きだが、くたくたになって一生懸命働いても低賃金で扱いが悪いと悲しくなってくる。



## こんな声も・・・

- ・年金から保険料を引くのは納得がいかない。  
病気がちで通院している、最初は 25 万あった年金は 20 万になった。介護の必要な人は国民の保険料で世話するのでなく、全面的に国が面倒みたらよい。

今回の相談で多かったのは、妻を介護する 80 歳を過ぎた男性からの相談です。老人が老人を介護する「老老介護」が当たり前になっていて、社会的介護を目的としてつくられた介護保険制度の役割が果たせていないと感じました。そのうえ、年金生活で収入が少ない高齢者は、お金の負担が苦しくて受けてほしい介護が受けられない実態も明らかとなりました。また、孤立している家庭での介護に先が見えず、閉塞感の中で介護をしている家族は、「相談できる場所がない。」と切実です。これまで 2 回の相談を受けてきたメンバーは、「半年前と全然違う。」「今回が一番深刻になっている。」と改めて相談活動の重要性を感じたところでした。この声を、府や国に届けていきましょう。